

平成26年度 産業廃棄物税基金充当事業 実績報告書

事業名:解体木造建築物の構造材再利用促進の基礎的研究事業(古川工)

事業実施予定期間:平成20年度から平成31年度

担当課室名:高校教育課

担当班名 キャリア教育班 TEL: 3625

e-mail ko-kogyo@pref.miyagi.jp

1 事業の目的

産業廃棄物の再利用・有効利用を含めた、循環型社会に貢献できる技術者・技能者を育成する。また、廃棄物の発生抑制や、リサイクル産業の振興並びに循環型社会について、専門高校生として取り組むことのできる実践や基礎的研究を各関係団体からの支援を受け行う。

2 当該年度の実施事業の概要・実績

解体予定の木造建築物の部材を採取し、再利用可能な材料としての補強方法を研究しながら規格材に加工し、木工機械を活用した製作型研究を行った。特に、本校入学前に東日本大震災を経験した生徒の考えを反映させ避難所などで活用できる物品及び地域保育園で活用できる木製玩具の製作を行った。

○避難所内での活用を考えた簡易間仕切り(コンビネーションパネル)の製作(縦15枚・横10枚)

○廃材を利用した家具等の製作(小型ラック2台、教室用物品収容棚40台)

○廃材を利用したゴミステーションの製作・設置(1台) ○腰掛ベットの製作・提供(4台)

○廃材を利用した木製玩具の製作と提供(動物パズル38個) ○部活動利用の柔剣道場姿見設置

○製作段階で排出されるカンナくずの利用(宮城県農業高校へ家畜の敷料として提供、10袋)

事業取り組みに際して、宮城県解体工事業組合、大工、木工建具職人や設計士と連携し、専門的知識の学習と作業体験及び技術・技能指導を受けた。(全41回)

産業廃棄物の処理状況等現場見学と、専門講師の指導による設計・製作工程を通じた実践的学習で、地球環境に配慮した今後の産業活動に寄与できる人材の育成に努めた。(全6回)

3 当該年度の実施事業の成果

○大崎市が指定する避難所に簡易間仕切り12枚を寄贈した。同時に実施した古川駅南地区防災避難訓練では生徒が講師役となり避難所に設置する簡易更衣室の組み立て作業を実演した。

○廃材を活用した動物パズルを製作し、大崎市内2保育園に18個を寄贈した。

○大学生が運営する特定非営利活動法人「Avain」に腰掛ベット2台を寄贈した。

○現場見学と専門的講師からの指導による実践的学習を通し、地球環境に配慮した今後の産業活動に関与できる人材の育成を図った。

○地域の建設廃棄物処理企業、大工、木工職人や設計士との連携・協力体制を構築した。

4 今後の展開

○これまでに構築した地域の各種団体や企業との連携・協力体制により、解体材料の提供や各種現場見学・実習場所等の提供を受けるなど、地域と連携した継続的な人材育成を推進する。

○ものづくりをとおして、地域防災に取り組む諸団体(町内会など)や教育機関(幼稚園や保育園など)からの要望に応える木工製品づくりに取り組み、産業廃棄物の抑制に寄与する人材育成を推進する。

5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の効果を示す指標の数値

(指標:関連授業時数)

単位:時間

19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
99	268	340	245	震災により延期	249	250	284		

6 事業費の推移

単位:千円

20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
7,310	3,097	3,012	震災により延期	2,850	3,500	2,674			